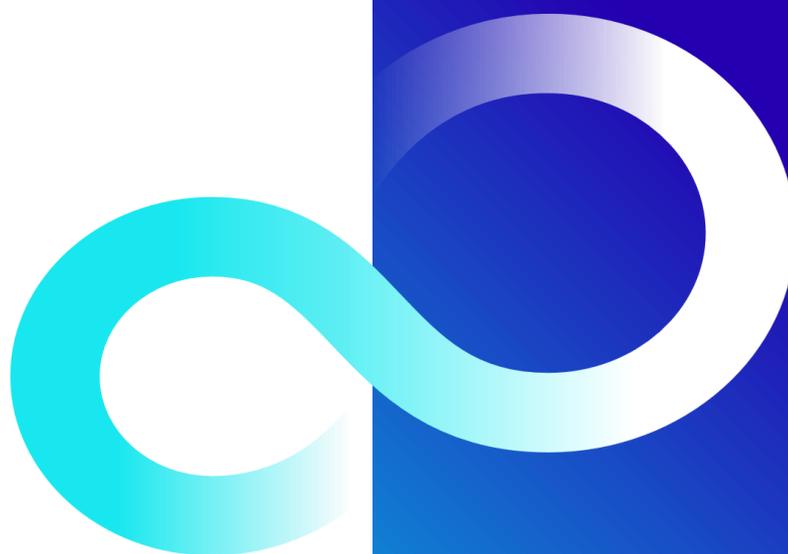


Oracle Solaris 10を
使ってみよう
(インストール手順書)



2011年11月
第2版
富士通株式会社

本資料について

- Oracle Solarisに関するインストール手順を紹介しています。別冊の「Oracle Solaris 10を使ってみよう～インストール編～」を参照しながら、本手順書を活用してください。
参考URL <https://www.fujitsu.com/jp/sparc-technical/document/solaris/os10.html#os>
- 本資料では、Solaris 環境をOracle VM Server for SPARC上に構築した場合の手順を記載しております。そのため一部、Oracle VM Server for SPARCに依存した内容があります。例えば、ディスクやネットワーク・インターフェースなどがOracle VM Server for SPARC固有の値となっており、物理サーバ環境とは異なりますのでご了承ください。
- 本資料は、Oracle Solaris 10 9/10を使用した手順を紹介しています。

使用条件

- 著作権・商標権・その他の知的財産権について
コンテンツ(文書・画像・音声等)は、著作権・商標権・その他の知的財産権で保護されています。本コンテンツは、個人的に使用する範囲でプリントアウトまたはダウンロードできます。ただし、これ以外の利用(ご自分のページへの再利用や他のサーバへのアップロード等)については、当社または権利者の許諾が必要となります。
- 保証の制限
本コンテンツについて、当社は、その正確性、商品性、ご利用目的への適合性等に関して保証するものではなく、そのご利用により生じた損害について、当社は法律上のいかなる責任も負いかねます。本コンテンツは、予告なく変更・廃止されることがあります。

商標

- UNIXは、米国およびその他の国におけるオープン・グループの登録商標です。
- SPARC Enterprise、SPARC64およびすべてのSPARC商標は、米国SPARC International, Inc.のライセンスを受けて使用している、同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- OracleとJavaは、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。
- その他各種製品名は、各社の製品名称、商標または登録商標です。

■ 目次

1. Oracle Solaris 10インストール
 - 1-1. インストール準備
 - 1-2. 対話式インストール
 - 1-3. ESFインストール

■ 1. Oracle Solaris 10インストール

1-1. インストール準備

(1) インストールするサーバへのコンソール接続

ターミナルソフトウェア(Teratermなど)を開き、システムコントローラに接続し、コンソールに接続します。
okプロンプトが表示されることを確認

```
{0} ok
```

※ 表示されない場合、Enterキーを押下してみてください。

(2) DVDをブートしてOracle Solaris OSインストールを開始します。

```
{0} ok boot cdrom
```

サーバからのログアウト方法 (必要に応じて実施)

(1) コンソール接続からログアウトする場合

1) ~ (チルダ) + . (ドット) を連続で入力します。

```
# ~ (← 入力時は画面出力されません)  
Connection to 192.168.10.111 closed by foreign host.  
$
```

2) exit コマンドで終了します。

```
$ exit
```

(2) OS接続からログアウトする場合

1) exit コマンドで終了します。

```
# exit
```

※ 一つ前の環境に戻るため、全てログアウトする場合は数回実行してください。

1-2. 対話式インストール

(1) システムの初期構成

1) 言語の選択

```
Select a Language
```

- 0. English
- 1. Brazilian Portuguese
- 2. French
- 3. German
- 4. Italian
- 5. Japanese**
- 6. Korean
- 7. Simplified Chinese
- 8. Spanish
- 9. Swedish
- 10. Traditional Chinese

```
Please make a choice (0 - 10), or press h or ? for help: 5
```

5. Japanese を選択します。

※ 対話式インストール中に使用する言語を選択します。

2) 端末タイプの選択

どのタイプの端末を使用していますか？

- 1) ANSI 標準 CRT
- 2) DEC VT52
- 3) **DEC VT100**
- 4) Heathkit 19
- 5) Lear Siegler ADM31
- 6) PC コンソール
- 7) Sun コマンドツール
- 8) Sun ワークステーション
- 9) Televideo 910
- 10) Televideo 925
- 11) Wyse Model 50
- 12) X 端末エミュレータ (xterms)
- 13) CDE 端末エミュレータ (dtterm)
- 14) その他

選択する番号を入力して、Return キーを押してください。3

3) DEC VT100 を選択します。

3) 画面操作についての留意事項の確認

Solaris インストールプログラム

Solaris インストールプログラムは、いくつかのセクションで構成されています。各セクションで、ユーザーはインストールに必要な情報を選択します。各セクションの最後では、選択した情報を次のセクションに進む前に変更することができます。

ナビゲーションについて...

- マウスは使用できません。
 - キーボードにファンクションキーが付いていない場合またはファンクションキーが利かない場合は、ESC キーを押してください。
- ナビゲーションに使用する ESC キーについて、画面の下に表示されます。

Esc-2_継続 Esc-6_ヘルプ

継続を選択 ([Esc] キーと [2] キーを押す)

4) システムの確認画面

システムを確認してください。

この後の画面では、システムをネットワークに接続するか、接続しないかを確認しデフォルトの時間帯と日付/時刻を設定してください。

システムをネットワークに接続する場合、ソフトウェアはシステムを確認するために必要な情報を検索します。ソフトウェアが見つけれなかった情報については、その入力を求めるプロンプトが表示されます。

> システムの確認を開始するには、F2 キーを押してください。

Esc-2_継続 Esc-6_ヘルプ

継続を選択 ([Esc] キーと [2] キーを押す)

5) ネットワーク接続の有無の選択

ネットワーク接続性

Solaris CD 上にサポートされている Solaris、あるいはベンダーのネットワークまたは通信イーサネットカードの 1 つによって、システムがネットワークに接続されている場合は「はい」を指定します。Solaris CD 上にサポートされていないネットワークまたは通信カードにシステムが接続されている場合は「いいえ」を指定して、ヘルプにリストされている手順にしたがってください。

ネットワークに接続
[X] はい
[] いいえ

Esc-2_継続 Esc-6_ヘルプ

本資料ではネットワークを設定するので「はい」にチェックを入れて継続を選択 ([Esc] キーと [2] キーを押す)

6) DHCPの使用有無の選択

vnet0用の DHCP

このネットワークインタフェースを構成するのに DHCP を使用するかどうかを指定してください。DHCP を使用する場合は「はい」、手作業でネットワークインタフェースを構成する場合は「いいえ」を選択してください。

注: ここで DHCP を使用するよう選択しても、システムをリブートするまではDHCP が使用可能になりません。

vnet0用に DHCP を使用

[] はい
[X] いいえ

Esc-2_継続 Esc-6_ヘルプ

本資料ではDHCPを使わないので、「いいえ」にチェックを入れて継続を選択 ([Esc] キーと [2] キーを押す)

※「vnet0」はOracle VM Server for SPARC 環境特有のインターフェース名です。

7) ホスト名の設定

vnet0用のホスト名

ホスト名を入力してください。ホスト名は、ネットワーク上でシステムを識別するためのものです。ドメイン内で固有の名前を指定する必要があります。重複するホスト名を指定すると、Solaris のインストール後に、ネットワーク上で問題が発生します。

ホスト名は少なくとも 2 文字の長さで指定してください。文字、数字、マイナス記号 (-) を使うことができます。

vnet0用のホスト名 **sol10**

Esc-2_継続 Esc-6_ヘルプ

ホスト名を入力して継続を選択 ([Esc] キーと [2] キーを押す)

8) IPアドレスの設定

vnet0用の IP アドレス

このネットワークインタフェースのインターネットプロトコル (IP) アドレスを入力してください。サイトのアドレス規則に従った固有のアドレスを使用してください。そうしないと、システムやネットワークの障害が発生する可能性があります。

IP アドレスは、ピリオドで区切った 4 つの数値で指定してください。
(例 129.200.9.1)

vnet0用の IP アドレス **XXX.XXX.XXX.XXX**

Esc-2_継続 Esc-6_ヘルプ

IPアドレスを入力して継続を選択 ([Esc] キーと [2] キーを押す)

9) サブネットの設定

vnet0 用のサブネット

このネットワークインタフェースのインターネットプロトコル (IP) アドレスを入力してください。サイトのアドレス規則に従った固有のアドレスを使用してください。そうしないと、システムやネットワークの障害が発生する可能性があります。

選択するには、矢印キーを使用してオプションを反転表示し、Return キーを押して [X] と表示してください。

システムはサブネットの一部

[X] はい
[] いいえ

Esc-2_継続 Esc-6_ヘルプ

「はい」にチェックを入れて継続を選択 ([Esc] キーと [2] キーを押す)

10) ネットマスクの設定

vnet0 用のネットマスク

この画面では、サブネットのネットマスクを指定してください。デフォルトのネットマスクが画面に表示されています。この値が使用中のサブネットで正しいとわかっている場合以外は、このデフォルト値を使用しないでください。ネットマスクは、ピリオドで 4 つに区切った数値で指定してください。(例 255.255.255.0)

vnet0 用のネットマスク **255.255.255.0**

Esc-2_継続 Esc-6_ヘルプ

※ 設定するネットマスクはお客様の環境にてご確認ください。

ネットマスク値を入力して
継続を選択 ([Esc] キーと [2] キーを押す)

11) IPv6使用の有無の選択

vnet0 用の IPv6

このネットワークインタフェース上で次世代インターネットプロトコルである IPv6 を使用可能にするかどうかを指定してください。マシンが存在するネットワーク上に IPv6 サービスが提供されていない場合は、ここで IPv6 を選択しても使用できません。また IPv6 を選択しても、IPv4 サービスに対する影響はありません。

> 選択するには、矢印キーを使用してオプションを反転表示し、Return キーを押すと [X] が表示されます。

vnet0 用に IPv6 を使用
[] はい
[X] いいえ

Esc-2_継続 Esc-6_ヘルプ

本資料ではIPv6を使用しないので
「**いいえ**」にチェックを入れて
継続を選択 ([Esc] キーと [2] キーを押す)

12) デフォルトルートの設定

vnet0 用のデフォルトルートの設定

デフォルトルートの設定には、リポート時にソフトウェアに検出させる方法と、あらかじめルーターの IP アドレスを指定する方法があります。サブネット上にルーターが存在しない場合は、「なし」を選択してください。

> 選択するには、矢印キーを使用してオプションを反転表示し、Return キーを押して [X] と表示してください。

vnet0 用のデフォルトルート
[] リポート時に検出
[X] 指定
[] なし

Esc-2_継続 Esc-6_ヘルプ

本資料ではルーターのIPアドレスを指定する。
「**指定**」にチェックを入れて
継続を選択 ([Esc] キーと [2] キーを押す)

13) デフォルトルートのIPアドレスの設定

vnet0 用のデフォルトルートの IP アドレス

デフォルトルートの IP アドレスを入力します。ここに記入した値は /etc/defaultrouter ファイルに保存され、リポート後にデフォルトルーターとなります。(例 129.146.89.225)

vnet0 用のルーターの IP アドレス **YYY.YYY.YYY.YYY**

Esc-2_継続 Esc-6_ヘルプ

※ デフォルトルートのIPアドレスは、お客様の環境にてご確認ください。

デフォルトルーターのIPアドレスを入力して
継続を選択 ([Esc] キーと [2] キーを押す)

14) 設定情報の確認

vnet0 の情報の確認

> 次の情報を確認してください。
正しい場合は、F2 を、情報を変更する場合は、F4 を押してください。

ネットワークに接続: はい
DHCP を使用: いいえ
ホスト名: **sol10**
IP アドレス: **XXX.XXX.XXX.XXX**
システムはサブネットの一部: はい
ネットマスク: **255.255.255.0**
IPv6 を使用: いいえ
デフォルトルート: 指定
ルーターの IP アドレス: **YYY.YYY.YYY.YYY**

Esc-2_継続 Esc-4_変更 Esc-6_ヘルプ

入力した情報の確認を行い、良ければ継続を選択
([Esc] キーと [2] キーを押す)

15) セキュリティポリシーの選択

セキュリティポリシーの構成

Kerberos セキュリティ機構を使用する場合は「はい」を指定してください。
標準の UNIX セキュリティを使用する場合は「いいえ」を指定してください。

Kerberos セキュリティの構成

[] はい
[X] いいえ

Esc-2_継続 Esc-6_ヘルプ

「いいえ」
にチェックを入れて
継続を選択 ([Esc] キーと [2] キーを押す)

16) セキュリティポリシーの確認

情報の確認

> 次の情報を確認してください。
正しい場合は、F2 を、情報を変更する場合は、F4 を押してください。

Kerberos セキュリティの構成: いいえ

Esc-2_継続 Esc-4_変更 Esc-6_ヘルプ

入力した情報の確認を行い、良ければ継続を選択
([Esc] キーと [2] キーを押す)

17) ネームサービスの選択

ネームサービス

この画面では、ネームサービス情報を指定してください。
システムが使用するネームサービスを選択してください。
システムがネームサービスを使用しない場合、または使用するネーム
サービスがこのリスト中不在の場合は、「None」を選択してください。

選択するには、矢印キーを使用してオプションを反転表示し、
Return キーを押して [X] と表示してください。

ネームサービス
[] NIS+
[] NIS
[] DNS
[] LDAP
[X] None

Esc-2_継続 Esc-6_ヘルプ

本資料ではネームサービスは設定しません。
「None」にチェックを入れて
継続を選択 ([Esc] キーと [2] キーを押す)

18) ネームサービスの確認

情報の確認

> 次の情報を確認してください。
正しい場合は F2 を、情報を変更する場合は F4 を押してください。

ネームサービス: None

Esc-2_継続 Esc-4_変更 Esc-6_ヘルプ

入力した情報の確認を行い、良ければ継続を選択
([Esc] キーと [2] キーを押す)

19) NFSv4 ドメイン名の設定

NFSv4 ドメイン名

NFS version 4 はシステムのネームサービスから自動的に取得されたドメイン名を使用します。大半の設定には、取得されたドメイン名を使用できます。ときどき起きている例として、共通ドメイン名が存在しないためにドメインの境界をまたがるマウントで、ファイルの所有者が "nobody" と表示されることがあります。

現在の NFSv4 デフォルトドメイン: ""

NFSv4 ドメインの設定

- システムによって取得された NFSv4 ドメインを使用します
 別の NFSv4 ドメインを指定します

Esc-2_継続 Esc-6_ヘルプ

「システムによって取得された NFSv4 ドメインを使用します」
にチェックを入れて
継続を選択 ([Esc] キーと [2] キーを押す)

20) NFSv4 ドメイン名の確認

NFSv4 Domain の情報の確認

> 次の情報を確認してください。
正しい場合は、F2 を、情報を変更する場合は、F4 を押してください。

NFSv4 ドメイン名: << 動的に取得される値 >>

Esc-2_継続 Esc-4_変更 Esc-6_ヘルプ

入力した情報の確認を行い、良ければ継続を選択
([Esc] キーと [2] キーを押す)

21) 時間帯の設定

時間帯

この画面では、デフォルトの時間帯を指定してください。次の 3 つの方法で時間帯を指定できます。リストから大陸または海洋を選択するか、「その他 - GMT との時差」または「その他 - 時間帯ファイル」を選択します。

> 選択するには、矢印キーを使ってオプションを反転表示し
Return キーを押して X マークをつけてください。

- 大陸と海洋
- アフリカ
 - x アメリカ
 - x 南極大陸
 - x 北極海
 - x アジア
 - x 大西洋
 - x オーストラリア
 - x ヨーロッパ
 - v インド洋

Esc-2_継続 Esc-6_ヘルプ

「アジア」
にチェックを入れて
継続を選択 ([Esc] キーと [2] キーを押す)

22) 国または地域の選択

国または地域

> 選択するには、矢印キーを使ってオプションを反転表示し、Return キーを押して X マークをつけてください。

国と地域

```

^ [ ] ロシア
x [ ] 韓国
x [ ] 香港
x [ ] 台湾
x [ ] 中国
x [ ] 東ティモール
x [X] 日本
- [ ] 北朝鮮

```

Esc-2_継続 Esc-6_ヘルプ

「日本」
にチェックを入れて
継続を選択 ([Esc] キーと [2] キーを押す)

23) システムの日付と時刻の設定

日付と時刻

> デフォルトの日付と時刻を使用するか、新しい値を入力してください。

日付と時刻: 2011-07-07 07:07

```

年 (4桁) : 2011
月 (1-12) : 07
日 (1-31) : 07
時 (0-23) : 07
分 (0-59) : 07

```

Esc-2_継続 Esc-6_ヘルプ

「年・月・日・時・分」
を入力して
継続を選択 ([Esc] キーと [2] キーを押す)

24) 情報の確認

情報の確認

> 次の情報を確認してください。
正しい場合は、F2 を、情報を変更する場合は、F4 を押してください。

時間帯: Japan
日付と時刻: 2011-07-07 07時07分00秒

Esc-2_継続 Esc-4_変更 Esc-6_ヘルプ

入力した情報の確認を行い、良ければ継続を選択
([Esc] キーと [2] キーを押す)

25) システム管理ユーザーの設定

root パスワード

このシステムの root パスワードを入力してください。

root パスワードに使用できるのは、英数字および特殊文字です。
セキュリティ上の理由から、入力するパスワードは画面に表示されません。

> root
にパスワードを割り当てない場合は、両方のエントリを空白のままにしてください。

```

root パスワード: *****
root パスワード: *****

```

Esc-2_継続 Esc-6_ヘルプ

rootのパスワードを入力して
継続を選択 ([Esc] キーと [2] キーを押す)

【参考】初期構成のやり直し (sys-unconfig)

ここまで行ったシステムの初期構成は、OSインストール後に sys-unconfig コマンドでやり直すことができます。

1) システムの再構成

```
# sys-unconfig
警告
このプログラムは、システムの構成を解除します。つまり、名前がなく、他のシステムやネットワークを認識しない“初期”状態のシステムに戻してしまいます。
このプログラムは、システムの停止も行います。
継続してよろしいですか (y/n) ?y
svc.startd: The system is coming down. Please wait.
svc.startd: 93 system services are now being stopped.
Jun 23 13:57:42 sol10 syslogd: going down on signal 15
svc.startd: The system is down.
syncing file systems... done
Program terminated
```

2) システムの起動

```
{0} ok boot
```

システム起動後の初回ログイン時に、再度初期構成が開始されます。

26) セキュアなリモート接続の設定

```
Enabling remote services

Would you like to enable network services for use by remote clients?

Selecting "No" provides a more secure configuration in which Secure Shell is the only network service provided to remote clients. Selecting "Yes" enables a larger set of services as in previous Solaris releases. If in doubt, it is safe to select "No" as any services can be individually enabled after installation.

Note: This choice only affects initial installs. It doesn't affect upgrades.

Remote services enabled
[ ] Yes
[X] No

Esc-2_Continue   Esc-6_Help
```

本資料ではセキュアなネットワーク環境を構築するため、「No」にチェックを入れて Continueを選択 ([Esc] キーと [2] キーを押す)

※ 上記の設定は、netservices コマンドによりインストール後も変更が可能です。下記【参考】を参照してください。

【参考】netservices コマンド

ネットワークサービスを無効にする場合は、次のようにコマンドを実行します。

```
# netservices limited
```

※ telnet サービスが停止しますので、telnet 接続時はサーバへの接続が即時に切断されるので注意してください。

ネットワークサービスを有効にする場合は、次のようにコマンドを実行します。

```
# netservices open
```

(2) OSインストール

1) 自動登録の設定

Solaris 自動登録情報の入力:

製品およびサービス向上のため、Oracle Solaris はリポート後に構成データを Oracle に送信します。

ご自身の使用のために、使用中のバージョンの Oracle Solaris を登録してこのデータを取得できます。登録しない場合、データを匿名で送信します。

送信される構成データの内容およびこの機能の制御方法の詳細については、リリースノートまたは www.oracle.com/goto/solarisautoreg を参照してください。

> 矢印キーを使用してオプションを選択し、Return キーを押して [X] マークを付けてください。

[] My Oracle Support の情報を使用して登録します。

F2_継続 F6_ヘルプ

チェックを入れず
継続を選択 ([Esc] キーと [2] キーを押す)

※Solaris自動登録とは、Solaris 10 9/10から提供される新機能です。
インストール直後のリポート時に、システムの設定情報がOracle社に送信されます。

2) 自動登録の確認

Solaris 自動登録情報の入力:

構成データを匿名で送信するには、次のフィールドに入力してください。
プロキシサーバーを使用している場合、プロキシ設定を入力します。

送信される構成データの内容およびこの機能の制御方法の詳細については、リリースノートまたは www.oracle.com/goto/solarisautoreg を参照してください。

プロキシサーバーのホスト名:
プロキシサーバーのポート番号:
HTTP プロキシのユーザー名:
HTTP プロキシのパスワード:

Esc-2_継続 Esc-6_ヘルプ

各項目に何も表示されていない事を確認して
継続を選択 ([Esc] キーと [2] キーを押す)

3) インストール方法の選択

Solaris 対話式インストール

次の画面で、デフォルトを受け入れるか、または以下に示すように Solaris をインストールする方法をカスタマイズできます：

- インストールする Solaris のタイプを選択します
- 選択したソフトウェアをインストールするディスクを選択します
- Solaris とともにインストールするアンバンドル製品を選択します
- ディスク上にファイルシステムを配置する方法を指定します

これらの作業を完了すると、選択の一覧（プロファイルと呼ばれる）が表示されます。

Solaris ソフトウェアをインストールする方法は 2 つあります：

- “標準” 標準の Solaris ディストリビューションからシステムをインストールします。
“標準” を選択した場合、さらに初期インストールまたはアップグレード可能なシステムの場合は、アップグレードを選択できます。
- “フラッシュ” フラッシュアーカイブ（複数も可）からシステムをインストールします。

F2_標準 F4_フラッシュ F5_終了 F6_ヘルプ

標準を選択（[Esc] キーと[2] キーを押す）

【参考】OSのインストール方式

標準(標準インストール)

⇒ローカルサーバのインストールを対話形式でひとつずつ設定するインストール方式。

フラッシュ(フラッシュアーカイブ)

⇒別のインストール済みサーバから取得したOracle SolarisOSのアーカイブイメージを用いて自動的にインストールする方式。
ソフトウェア/ファイルシステムの構成が全く同じに設定されます。

4) メディアの排出方法の選択

CD/DVDを自動的に取り出すようにしますか？

1 枚以上の CD または DVD を用いて Solaris ソフトウェアをインストールする際に個々の CD または DVD のインストール終了後に、その CD/DVD を自動的に取り出すようにするか、手動で取り出すようにするかを設定することができます。

- CD/DVD を自動的に取り出す
 CD/DVD を手動で取り出す

F2_継続 F3_前に戻る F5_終了

「CD/DVD を手動で取り出す」
にチェックを入れて
継続を選択（[Esc] キーと[2] キーを押す）

5) インストール後の自動リポート設定の選択

インストール後にリポートしますか？

Solaris をインストールしたあと、システムをリポートしてください。
「自動リポート」を選択してシステムを自動的にリポートするか、あるいは、スクリプトを実行して別のカスタマイズを行いたい場合には、システムを手動でリポートするように選択できます。
reboot(1M) コマンドを使用すると、システムを手動でリポートできます。

- 自動リポート
 手動リポート

F2_継続 F3_前に戻る F5_終了

「自動リポート」
にチェックを入れて
継続を選択（[Esc] キーと[2] キーを押す）

6) ライセンスの同意

ライセンス

You acknowledge that your use of this software is subject to (i) the license terms that you accepted when you obtained a right to use this software; or (ii) the license terms that you signed when you placed your software order with us; or, if neither (i) or (ii) are applicable, then, (iii) the Oracle Electronic Delivery Trial License Agreement (which you acknowledge that you have read and understand), available at edelivery.oracle.com. Note: Software downloaded for trial use or downloaded as replacement media may not be used to update any unsupported software.

Esc-2_ライセンスに同意する F5_終了

ライセンスに同意するを
選択 ([Esc] キーと [2] キーを押す)

7) 言語の選択

地域の選択

インストールするソフトウェアの対応地域を選択してください。

[] Tamil, India (UTF-8)
 [] Telugu, India (UTF-8)
 [] [タイ TIS620]
 [] [タイ UTF-8]
 [] [ヒンディー UTF-8]
 [] [簡体字中国語 EUC]
 [] [簡体字中国語 GB18030]
 [] [簡体字中国語 GBK]
 [] [簡体字中国語 UTF-8]
 [] [韓国語 EUC]
 [] [韓国語 UTF-8]
 [X] [日本語 EUC (ja)]
 [X] [日本語 PC 漢字 (ja_JP.PCK)]
 [X] [日本語 UTF-8 (ja_JP.UTF-8)]
 [] [繁体字中国語 (香港) BIG5+HKSCS]
 [] [繁体字中国語 (香港) UTF-8]

「アジア」でspaceキーを押すと
文字コードを複数追加することができます。
[日本語 EUC (ja)]
[日本語 PC 漢字 (ja_JP.PCK)]
[日本語 UTF-8 (ja_JP.UTF-8)]
 にチェックを入れて
 継続を選択 ([Esc] キーと [2] キーを押す)

ロケールは選択されています。選択を解除するには Return キーを押してください

Esc-2_継続 F3_前に戻る F5_終了 F6_ヘルプ

※ 日本語環境の場合、上記3つにチェックを入れます。

8) システムが使用するデフォルトのLANGを指定

システムのロケール選択

システムがインストールされた後に使用されるロケールを選択します。

- POSIX C (C)
 アジア
 [日本語 EUC (ja)] (ja)
 [日本語 PC 漢字 (ja_JP.PCK)] (ja_JP.PCK)
 [日本語 UTF-8 (ja_JP.UTF-8)] (ja_JP.UTF-8)

Esc-2_継続 F3_前に戻る F5_終了 F6_ヘルプ

「日本語 EUC (ja) (ja)」
 にチェックを入れて
 継続を選択 ([Esc] キーと [2] キーを押す)

※「5)言語の選択」で指定した中から、デフォルトで使用する言語を選択します。

9) 追加インストールする製品の選択

追加製品の指定

追加製品を検索する場所を選択してください。
 Solaris Web Start でインストールできる製品が、
 製品リストに追加されます。

追加製品を検索する場所:

- なし
 CD/DVD
 ネットワークファイルシステム

Esc-2_継続 F3_前に戻る F5_終了

「なし」
 にチェックを入れて
 継続を選択 ([Esc] キーと [2] キーを押す)

10) システムが使用するファイルシステムの選択

ファイルシステムタイプの選択

Solaris インストールに使用するファイルシステムを選択します

- UFS
 ZFS

Esc-2_継続 F3_前に戻る F5_終了 F6_ヘルプ

本資料では、UFSを使用して構築します。
「UFS」にチェックを入れて
 継続を選択 ([Esc] キーと [2] キーを押す)

11) インストールするパッケージの選択

ソフトウェアの選択

システムにインストールする Solaris を選択してください。

注: ソフトウェアグループを選択したあと、ソフトウェアのカスタマイズで
 ソフトウェアの追加または削除ができます。ただし、カスタマイズする
 にはソフトウェアの依存性を理解していることと Solaris がパッケージ
 されている方法を理解していることが必要です。

- 全体ディストリビューションと OEM サポート .. 7096.00 MB
 全体ディストリビューションサポート 7054.00 MB
 開発者システムサポート 6825.00 MB
 エンドユーザーシステムサポート 5586.00 MB
 コアシステムサポート 1431.00 MB
 Reduced Networking コアシステムサポート 1373.00 MB

お待ちください...

Esc-2_継続 F3_前に戻る F4_カスタマイズ F5_終了 F6_ヘルプ

本資料では、全パッケージをインストールします。
「全体ディストリビューションとOEMサポート」
 にチェックを入れて
 継続を選択 ([Esc] キーと [2] キーを押す)

12) インストール先ディスクの選択

ディスクの選択

この画面では、Solaris ソフトウェアをインストールするディスクを選択します。
 まず「推奨する最小値」フィールドの値を確認してください。
 これは、選択したソフトウェアをインストールするために必要な容量の概算値です。
 「選択済みディスク合計」フィールドの値が「推奨する最小値」フィールドの値を
 超えるまで、ディスクの選択を続けてください。
 注: ** は現在のブートディスクを表します

ディスクデバイス	空き領域
[X] c0d0	16363 MB
[] c0d1	16363 MB

選択済みディスク合計: 16363 MB
 推奨する最小値: 5597 MB

Esc-2_継続 F3_前に戻る F4_編集 F5_終了 F6_ヘルプ

本資料では「c0d0」にインストールします。
 「c0d0」にチェックを入れて
 継続を選択 ([Esc] キーと [2] キーを押す)

※ Oracle VM Server for SPARC 環境のため、ディスクデバイスに、z(ターゲット)番号は表示されません。

13) 既存データの保存

データを保存しますか?

既存のデータを保存しますか? Solaris のインストールのために選択した
 ディスクのいずれかに、保存が必要と思われるファイルシステムまたは名前
 のないスライスがあります。

Esc-2_継続 F3_前に戻る F4_保存 F5_終了 F6_ヘルプ

継続を選択 ([Esc] キーと [2] キーを押す)

14) ファイルシステムの配置

ファイルシステムを自動配置しますか?

ファイルシステムを自動的に配置するために自動配置を使用しますか?
 手作業でファイルシステムを配置するには上級のシステム管理技術が必要です。

F2_自動配置 F3_前に戻る F4_手動配置 F5_終了 F6_ヘルプ

本資料では、ファイルシステムを手動で配置しま
 す。

15) ディスクスライスのカスタマイズ

ファイルシステムとディスクの配置

次のリストには、現在のファイルシステムとディスクの配置が、ここまでの画面
 で入力された情報に基づいて表示されています。

注: 「カスタマイズ」を選択する場合は、各ファイルシステム、およびそれらの
 ディスク上で想定されている目的、またそれらを変更したときにシステムの
 動作におよぶ影響を理解する必要があります。

ファイルシステム	ディスク/スライス	容量
overlap	c0d0s2	16363 MB

Esc-2_継続 F3_前に戻る F4_カスタマイズ F5_終了 F6_ヘルプ

カスタマイズを
 選択 ([Esc] キーと [4] キーを押す)

16) スライス名と容量のカスタマイズ

ディスクのカスタマイズ: c0d0

対象:	推奨:	MB	最小:	MB
Slice	マウントポイント	容量 (MB)		
0	/	12205		
1	swap	4157		
2	overlap	16363		
3		0		
4		0		
5		0		
6		0		
7		0		
総容量:		16363 MB		
割り当て済み:		16363 MB		
空き:		0 MB		
F2_了解 Esc-4_オプション F5_取消し F6_ヘルプ				

本資料では、左図のように設定します。
マウントポイントと容量を指定して、了解を選択 ([Esc] キーと [2] キーを押す)

17) スライス名とサイズの確認

ファイルシステムとディスクの配置

次のリストには、現在のファイルシステムとディスクの配置が、ここまでの画面で入力された情報に基づいて表示されています。

注: 「カスタマイズ」を選択する場合は、各ファイルシステム、およびそれらのディスク上で想定されている目的、またそれらを変更したときにシステムの動作におよぶ影響を理解する必要があります。

ファイルシステム	ディスク/スライス	容量
/	c0d0s0	12205 MB
swap	c0d0s1	4157 MB
overlap	c0d0s2	16363 MB

F2_継続 F3_前に戻る F4_カスタマイズ F5_終了 F6_ヘルプ

入力した情報の確認を行い、良ければ継続を選択 ([Esc] キーと [2] キーを押す)

18) リモートファイルシステムのマウント

リモートファイルシステムをマウントしますか?

リモートファイルサーバからソフトウェアをマウントしますか?
ディスク容量の問題のためにソフトウェアを削除しなければならない場合には、マウントする必要があります。

F2_継続 F3_前に戻る F4_リモートマウント F5_終了 F6_ヘルプ

継続を選択 ([Esc] キーと [2] キーを押す)

19) 設定内容の確認

プロファイル

以下の情報は Solaris をインストールするために必要なプロファイルです。
前の画面で行なった選択が反映されています。

```

-----
-      インストールオプション: 初期
x      ブートデバイス: c0d0
x      Root File System Type: UFS
x      クライアントサービス: なし
x
x      ロケール: [日本語 EUC (ja)]
x      [日本語 PC 漢字 (ja_JP.PCK)]
x      [日本語 UTF-8 (ja_JP.UTF-8)]
x      システムのロケール: [日本語 EUC (ja)] ( ja )
x
x      ソフトウェア: Solaris 10, 全体ディストリビューションと OE
x
x ファイルシステムとディスクの配置: /          c0d0s0 12205 MB
x      swap                          c0d0s1 4157 MB
x
v

```

Esc-2_インストールを開始 F4_変更 F5_終了 F6_ヘルプ

入力した情報の確認を行い、良ければ
「インストールを開始」を
選択 ([Esc] キーと [2] キーを押す)

20) 警告

警告

次のディスク構成状態が検出されました。確実にインストールを行うためには、エラーを修正する必要があります。警告については無視できます (インストールが失敗することはありません)。

警告: デフォルトのブートデバイスを変更します
デフォルトのブートデバイスを明示的に変更したか、または
“EEPROM の再構成” でデフォルトを選択しました。どちらの場合も、システムの EEPROM が変更になるため、常に指定したデバイスから Solaris をブートします。このようにしたくない場合は、ディスクの選択画面に戻って “EEPROM の再構成” の設定を変更してください。

F2_了解 F5_取消し

デフォルトのブートデバイスを変更する場合、警告が表示されますが、問題はありません。
継続を選択 ([Esc] キーと [2] キーを押す)

※ ディスク構成状態によって、上記の警告が表示されることがあります。

21) インストールの開始

Solaris をインストールするためにシステムを準備しています

ディスク (c0d0) を構成中です
- Solaris ディスクラベル (VT0C) を作成中です

Creating and checking file systems
- / (c0s0) を作成中です

Solaris ソフトウェアのインストールを開始します

Solaris 初期インストール

インストール済み (M バイト): 1547.08
インストール待ち (M バイト): 2902.84

インストール中: X.Org Foundation Xserver

| | | | | |
0 20 40 60 80 100

22) キーボードレイアウトの選択

Configure Keyboard Layout

Please specify the keyboard layout from the list below.

> To make a selection, use the arrow keys to highlight the option and press Return to mark it [X].

Keyboard Layout

^ [X] Japanese
x [] Korean
x [] Malta_UK
x [] Malta_US
x [] Norwegian
x [] Portuguese
x [] Russian
x [] Serbia-And-Montenegro
x [] Slovak
x [] Slovakian
v [] Spanish

Esc-2_Continue Esc-6_Help

「Japanese」にチェックを入れて、Continue を
選択 ([Esc] キーと [2] キーを押す)

インストール直後はsendmailのメッセージが断続的にコンソール上に出力されますが、インストールに失敗した訳ではありません。

【参考】sendmailのメッセージ

メッセージ例

```
「sol10 sendmail [23101]: [ID 702911 mail.alert] unable to qualify my own domain name (zone1) -- using short name」
```

これはドメインが未設定のために出力されるメッセージです。
このメッセージの出力を停止するには以下の方法があります。

・ホスト名にドメインをつけて解決させます。最も簡単な方法は/etc/hostsに追記します。

```
# cat /etc/hosts
XXX.XXX.XXX.XXX    sol10.localdomain sol10
```

・sendmailのサービスを停止します。(sendmailを使用しない場合)

```
# svcadm disable sendmail
# svcs -a | grep sendmail
disabled          14:35:06 svc:/network/smtp:sendmail
```

※第2章サービスの起動・停止でsendmailのサービスを停止しますが、メッセージが気になるようであれば、あらかじめ停止させておいて問題ありません。

【参考】PTF適用

1) シングルユーザーモードで起動

```
OBPIに移行
# shutdown -y -g0 -i0
```

シングルユーザーモードで起動

```
[0] ok boot -s
```

ログイン

```
Requesting System Maintenance Mode
SINGLE USER MODE

Root password for system maintenance (control-d to bypass):*****
```

2) ローカルファイルシステムのマウント

```
# mountall -l
```

3) PTF媒体のマウント

```
# mount -F hsfs -o ro /dev/dsk/c0t4d0s0 /cdrom
```

4) PTF媒体の確認

```
# ls -l /cdrom
```

```
# ls -l /cdrom
合計 11
drwxr-xr-x  7 root  other   2048  1月 28日  19:17 10_PTF
-rw-r--r--  1 root  other    465  8月 28日  2008年 README
-rw-r--r--  1 root  other    701  8月 28日  2008年 README.ja
drwxr-xr-x  6 root  other   2048  1月 28日  19:19 Unbundled01_PTF
```

5) PTF関連のコマンドのコピー

カレントディレクトリの移動

```
# cd /cdrom/10_PTF/bin
```

コピー対象のパッチ関連コマンドの確認

```
# ls -l
```

```
# ls -l
合計 695
-rwxr-xr-x  1 root  other   9580 12月 26日  2005年 Rextract
-rwxr-xr-x  1 root  other  206012 1月 14日  18:49 Rpatchadd
-rwxr-xr-x  1 root  other  50434  7月  5日  2008年 Rpatchchk
-rwxr-xr-x  1 root  other  24705  1月  8日  2008年 Rpatchinfo
-rwxr-xr-x  1 root  other  63823  7月  5日  2008年 Rpatchrm
```

PTF内のパッチ関連コマンドのコピー

```
# cp -p Rpatchinfo /usr/sbin/
# cp -p Rpatchrm /usr/sbin/
# cp -p Rpatchchk /usr/sbin/
```

※ OSインストール後にPTFの適用を確認するために必要となります。

コピーの確認

```
# ls -l /usr/sbin/Rpatch*
```

```
# ls -l /usr/sbin/Rpatch*
-rwxr-xr-x  1 root  other  50434  7月  5日  2008年 /usr/sbin/Rpatchchk
-rwxr-xr-x  1 root  other  24705  1月  8日  2008年 /usr/sbin/Rpatchinfo
-rwxr-xr-x  1 root  other  63823  7月  5日  2008年 /usr/sbin/Rpatchrm
```

6) PTFの一括適用

```
# ./Rpatchadd -P SOLOS
```

```
# ./Rpatchadd -P SOLOS
```

-- (省略) --

This PTF must be installed again after the system is rebooted.
Please read carefully "Notes for applying 137137-09" before running this tool.
You need to do necessary procedures before/after its application.
"Notes for applying 137137-09" is written in README/KU_README04 (English),
README/KU_README04.ja (Japanese).

n: The execution is stopped because you want to read "Notes for applying 137137-09".
y: Necessary procedures have been done after you read "Notes for applying 137137-09".

[n/y]: **y**

-- (省略) --

WARNING: The removal of the PTF patches using Rpatchrm is a limitation on Solaris 10 OS. Some problems may occur when some patches included in the PTF are removed from the system. (Please refer to PTF Guide for the further details.) Before installing the PTF, please make the backup of the system.

Type 'y' to continue, 'n' to break: **y**

-- (省略) --

No more patches can be applied unless the system is rebooted.
Please reboot the system immediately.

システム環境によってPTFの適用回数や再起動の必要回数に差異があります。
PTF適用の際はマニュアルも参照してください。

7) PTF媒体のマウント解除

```
# cd /
# umount /cdrom
```

8) システムの再起動

```
# shutdown -y -g0 -i6
```

9) 一括適用の確認

```
# /usr/sbin/Rpatchinfo -i -L
```

```
# /usr/sbin/Rpatchinfo -i -L
ID S NAME      VERSION  CLUSTER  PATCH-LIST
TIME
0001 a Solaris10 R09021   10       .LE_SOLOS
090623:18:54:10
```

10) 現在適用されているパッチ一覧の表示

```
# showrev -p
```

1-3. ESFインストール

(1) ESFインストール

1) シングルユーザーモードで起動

OBPIに移行

```
# shutdown -y -g0 -i0
```

シングルユーザーモードで起動

```
[0] ok boot -s
```

ログイン

```
Requesting System Maintenance Mode
SINGLE USER MODE
```

```
Root password for system maintenance (control-d to bypass):*****
```

2) ローカルファイルシステムのマウント

```
# mountall -l
```

3) ESF媒体のマウント

```
# mount -F nfs XXX.XXX.XXX.XXX:/cdrom /mnt
```

4) NFSマウントの確認

df -h

```
# df -h
ファイルシステム サイズ 使用済み 使用可能 容量 マウント先
/dev/dsk/c0d0s0 12G 4.8G 6.8G 42% /
--(省略)--
swap 6.5G 32K 6.5G 1% /tmp
swap 6.5G 24K 6.5G 1% /var/run
XXX.XXX.XXX.XXX:/cdrom 132G 21G 110G 16% /mnt
```

5) ESF媒体の確認

ls -l /mnt

```
# ls -l /mnt
合計 35
-rw-r--r-- 1 root other 2266 2月 2日 2007年 Copyright
drwxr-xr-x 5 root other 2048 3月 23日 2006年 ESFREMCS
lrwxrwxrwx 1 root other 12 12月 1日 2006年 GP7000S -> ./Platform/S
drwxr-xr-x 10 root other 2048 12月 1日 2006年 Platform
-rw-r--r-- 1 root other 2196 2月 2日 2007年 README
-rw-r--r-- 1 root other 2046 2月 2日 2007年 README.ja
drwxr-xr-x 2 root other 2048 6月 28日 2005年 bin
drwxr-xr-x 4 root other 2048 8月 29日 2006年 manual.pdf
drwxr-xr-x 4 root other 2048 1月 31日 2005年 misc
```

6) ESFインストール

カレントディレクトリの移動

cd /mnt

ESFインストール

./bin/esfadd

Enhanced Support Facility 3.0 をインストールします。

プラットフォーム: SUNW, SPARC-Enterprise-T5120
OS Release: Solaris 10

上記設定で、インストールしますか? [yes or no ?]: y

--(省略)--

7) ESF媒体のマウント解除

cd /

umount /mnt

8) システムの再起動

shutdown -y -g0 -i6

9) ESF版数の確認

/opt/FJSVbse/bin/esfver -l

```
# /opt/FJSVbse/bin/esfver -l
esfver: 情報: インストール済みEnhanced Support Facilityパッケージの版数
PKGNAME VERSION REVISION
-----
FJSVbse 3.0 2006.12.1200
FJSVamle 1.0.0 2006.12.1200
FJSVlmrm 1.0 2006.11.2800
FJSVmadm 1.2.3 2006.12.1200
FJSVrlib 8.2.2 2005.09.2000
FJSVragt 2.9 2005.01.1100
FJSVrmaos 2.9 2005.01.1100
FJSVracm 2.9 2005.01.1100
FJSVrrda 2.9 2005.06.2800
FJSVsirms 4.0 2006.08.0800
FJSVdef 1.4 2005.02.0800
FJSVssf 3.0.1 2005.07.0600
FJSVsnap 2.6 2006.06.1300
FJSVdmp 1.5 2002.11.2700
FJSVana 2.1 2005.01.1800
FJSVparam 1.1 2005.01.1100
FJSVhrmse 3.1.1 2006.10.3100
FJSVdcnf 1.2 2006.08.2900
FJSVpmgc 1.0 2005.11.1500
-----
ESF_PATCH_VERSION = 3.0A00_20070202
```

【参考】インストール後の設定値の確認方法

インストール後の確認

確認項目	オペレーション(例)	確認内容(例)
システムの基本情報を確認	uname -a	SunOS 5.10 (バージョンレベル)
ディストリビューションの確認	cat /var/sadm/system/admin/CLUSTER	CLUSTER=SUNWCXa11
OSインストールの確認	cat /var/sadm/system/logs/install_log	
host名の確認	hostname	
ネットマスクの確認	cat /etc/inet/netmasks	255.255.255.0
デフォルトルートの確認	cat /etc/defaultrouter	XXX.XXX.XXX.XXX
ローカルデータベースの確認	cat /etc/hosts	
nfsv4ドメイン名の確認	cat /etc/default/nfs	
デフォルトロケールの確認	cat /etc/TIMEZONE、/etc/default/init	TZ=Japan
ディスク、ディスクスライスサイズの確認	df -h	
ディスクスライスサイズの確認	prtvtoc /dev/dsk/c0t0d0s0	
デバイス名の確認	cat /etc/path_to_inst	

